

第 1 回県立高等学校みらいのあり方検討委員会の意見まとめ

新たな時代に対応した高等学校教育

- 難しい課題に直面しても諦めず、自分の力で他人に助けを求めたり、技術を使って課題を解決していくことを訓練できるようにすることが必要
- ものを考えて解決するための方法を体験的に学べるようにすることが必要
- 知るだけでなく実際の経験を積むことを重視した学びにしておくことが必要
- 様々な会社を知り、就職する会社をよりイメージしやすくなるよう、より多くの職場体験を得られるようにすることが必要
- 挑戦することを通して成功や失敗をすることを経験する中で力を身に付けていけるようにすることが必要
- 何回失敗してもその先の改善を考え、何度もチャレンジできるようにすることが必要
- 年上だけでなく年下の子どもとの交流を持つなど、その場にあわせた様々な役割を経験できるようにすることが必要
- 学ぶことを楽しんだり生きることを前向きに考えたりできるような、生きることの根幹を感じられるようにすることが必要
- 就職か進学かだけではない様々な生き方があるということを学べるようにすることが必要
- 「答え」はひとつでなく、今立っているところにも必ず「答え」があるということ^{を学べる}ようにすることが必要
- 子どもたちが将来を具体的に思い描けるよう、オンラインも活用しながら、大学や社会で活躍している先輩、生徒のロールモデルとなる人物との交流を持てるようにすることが必要
- 様々な人と接する機会を多く持ち、人と関わる中で小さな成功体験を積み重ねていけるようにすることが必要
- 学年に捉われることのない一人ひとりの育ち・成長に応じた学びができるようにすることが必要
- 文章や情報を正確に読み解く力、コミュニケーションする力といったこれからも変わらず必要となる力を身につけることができるようにすることが必要

誰一人取り残さない教育

- 日本人・外国人の区別なく、互いを理解し、互いに関わり、文化の違いを肯定しあえるようにしていくことが必要
- 外国人の子どもたちが自信を持ち、自己肯定感を育めるよう、高校でも日本語指導や勉強の遅れをフォローするなどの支援が必要
- 外国人生徒に係る特別枠入学者選抜の要件から外れる子どもが高校入学のための勉強ができるような場が必要
- テストの成績などひとつの基準ではなく、様々な面で一人ひとりを肯定でき、自分を肯定する力を自分自身でも他人からも育てられる場としていくことが必要
- 一人の人間として先生や友達から支えられ自分もがんばろうと思える「居場所」としての高校としていくことが必要

スクールミッション

- どの高校でも同じことばかりやるのではなく、学校ごとに目指すところを明確にし、中学生が自分に合った高校を選択しやすくできるようにしていくことが必要